

シンガポールで 富有柿売り込み

いび川農業協同組合(JAいび川)と揖斐郡3町でつくる「揖斐郡ブランド推進協議会」は12月1日まで4日間、販路拡大を目的に、特産の富有柿を中心にシンガポールでトップセールスを行った。2018年以来、6年ぶりのトップセールスで、貿易機関との協議や日系スーパーでの試食販売を実施。同協議会長の堀尾茂之同JA組合長は「輸出拡大に向けた活動を継続し、持続可能な農業や、農業者の所得向上を実現したい」と強調した。(湯浅裕作)

同協議会は郡内の特産品や魅力を国内外へ発信することを目的に17年に発足した。これまでも海外へ柿を輸出していたが、主要だった香港は政情不安や経済の衰退で伸び悩む一方、国内の市場は成熟化し、少子高齢化や人口減少で今後は需要の減少が見込まれてい

揖斐郡ブランド協、現地と連携強化 購買意欲確認「魅力ある市場」



全農インターナショナルアジアとの意見交換会に出席した揖斐郡ブランド推進協議会のメンバー＝シンガポール

田舎風景ニーズ、誘客も手応え

も販売し、2個1200、2400円で取り扱った柿を購入する来店者もいた。参加した大野町の宇佐美晃三町長は「魅力的な市場であり、今後の輸出の可能性は非常に高い」と強調。「ライバルは既に柿を輸出している国内の他の産地。関係者と連携をより深めながら、継続した取り組みが求められる」と力を込めた。JA全農岐阜の林政和副本部長も「揖斐郡ブランドの商品が持つ品質の高さを幅広く訴求し、シンガポールでのさらなるブランディング化を進めていきたい」と見据えた。

る。輸出拡大を模索する中で、購買意欲が高く、輸出が比較的簡易と条件がそろったシンガポールでの販路開拓や、現地機関との連携強化などを目指し、トップセールの企画した。同JAや全農農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)の関係者、揖斐郡3町の町長らが参加し、輸入商社の全農インターナショナルアジアや日本貿易振興機構(ジェトロ)、日本政府観光局(JNTO)のシンガポール事務所、大使館などを訪問。柿のほか、米やお茶など揖斐郡産の農畜産物の意見交換や、シンガポールでの需要、知名度向上への取り組み、インバウンド(訪日客)の誘客などについて協議した。担当者からは輸出の可能性は十分あり、田舎の風景にニーズがあるため、揖斐郡は足を運ぶ一つの場所となり得ることも示された。日系スーパーでは、「ドン・ドンドンキ」5店舗で販売員による柿の試食や販売に加え、美濃いび茶の試供品を配布した。また、明治屋で